

稲城長沼のまちづくり

～みんなで作ろう新たな魅力！～

まちづくりニュース **NO.1**

日頃より、地域の皆様におかれましては、稲城市のまちづくりにご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

これまで、稲城長沼駅周辺地区では平成 22 年度にまちづくり市民ワークショップをおこない、駅前広場や駅前通り線の整備方法についての検討をしていただきました。



この度、これから大きく変化していく稲城長沼駅周辺のにぎわいや魅力をどのようにつくっていけばよいかを皆様と考えていく会として「稲城長沼のまちづくり～みんなで作ろう新たな魅力！～」を開催いたしました。

本号では、1月16日（月）に稲城市第四文化センターにて16名の方にご参加いただき開催した「稲城長沼のまちづくり～みんなで作ろう新たな魅力！～」(第1回)の概要のご報告をするとともに、第2回の開催についてのご案内をいたします。

第2回 稲城長沼のまちづくり ～みんなで作ろう新たな魅力！～ を開催します！

■ 日 時：平成 24 年 2 月 13 日（月） 19：00 ～ 21：00

■ 場 所：さわやか信用金庫稲城支店 2階会議室（稲城市大丸 200）

※第1回とは会場がかわりますのでご注意ください。

■ テーマ：「稲城長沼の魅力とにぎわいづくり」

■ 参加方法：ご参加いただける方は、稲城市都市建設部区画整理課

（042-378-2111 内線 348）へ 2 月 10 日までにご連絡ください。

※なお、参加申込が無い方も、当日参加が可能ですのでぜひお越しください。

第1回で行なった意見交換会やアンケートの結果を受けて、第2回「稲城長沼駅のまちづくり～みんなで作ろう新たな魅力！～」を開催いたしますので、ふるってご参加ください。

当日は、稲城長沼のにぎわいづくりの活動についての紹介とともに、駅周辺で今なにができそうなのかについて意見交換をおこないます。



～稲城長沼のまちづくり(第1回)で行なったこと～

当日は、次のような手順で会議を進めました。

①地区のまちづくりの状況を説明しました。

稲城市から、土地区画整理事業や南武線の連続立体交差事業の現在の進み具合について説明をおこなうとともに、平成22年度に地域の方々と一緒におこなった「まちづくり市民ワークショップ」の検討結果をもとにしたCG（コンピューターグラフィック）をご紹介しました。



②意見交換の参考としてにぎわいづくりの事例紹介をしました。

商業地のにぎわいづくりを行なった3つの事例をコンサルタントより説明していただきました。商店街の人達の主体的な参加による活動、市民の協力、公民の協働などが功を奏した事例です。

また、アドバイザーとして参加していただいた首都大学東京の川原先生から、先生が関わられたまちづくり事例の紹介をしていただきました。



- ・山形県新庄市の空き店舗利用事業（新庄まちなか楽校）
- ・神奈川県横須賀市追浜地区で行なった商店街でのワインづくりと空き店舗利用事業（追浜こみゅに亭&ワイナリー）
- ・千葉県鎌ヶ谷市東武鉄道鎌ヶ谷駅周辺の土地区画整理事業と連続立体交差事業と合わせて行なわれたまちの顔づくり事業
- ・鶴岡市山王商店街のまちづくり事例



③まちづくりについてのアンケートと、まちの問題や課題、魅力、思いなどを自由に話し合いました。

参加者の方に2つのテーブルに分かれていただいて、稲城長沼のまちづくりで興味のあるテーマは何かというアンケートをしました。

自己紹介と合わせて、アンケートの結果を発表していただくとともに、その思いについて話をしていただき、まちの問題や課題、魅力、普段のまちに対する思いなどについて、自由に意見交換をしました。

興味のあるテーマとしては、「にぎわいがあり魅力のある商業地の作り方」を望む方が最も多く、「イベントやお祭りなどの開催による活気のあるまちづくり」がそれに次いで多くなっています。



④最後に、各テーブル出された意見を整理し、相互に確認しました。

出てきたご意見を模造紙に貼り込んでコンサルタントが整理して、全員で内容を確認しました。最後にアドバイザーの川原先生から本日の講評をいただきました。



～参加者のご意見～

参加者の方には活発に意見交換をしていただきました。主な意見としては次のようなものがありました。これらのご意見を参考にして、これからの会の進め方を考えたいと思います。

自動車や自転車について

にぎわいの第一条件は、大型商業施設があり、すぐ隣に車が入ってこない商店街があること。今は道路が危険。

駅前の商業地ににぎわいをつくりたいのなら、駐車場や駐輪場が必要で、つくらないとお店が出ていってしまう。

駐車場やごみ、騒音等の問題を解決し、人を集める仕掛け作りが必要。金はかかるが人が来れば金は落としてくれる。

稲城駅と稲城長沼駅を結ぶレンタサイクルシステムをつくれれば京王線と南武線の乗換で人が集まる。

高架下商業ができると自転車を駐輪場におかずに店のそばに置くので危険でじゃまになる。

駐車場や駐輪場が必要。駅は階段とエレベーターの位置をずらせば混雑が緩和する。

駅前への交番の誘致や駐輪場の配置などの検討が重要だと思う。



その他のことについて

駅前は電車に乗るのが主な目的だが、電車を利用しない人も駅前に入っていくまちづくりに興味がある。

はじめての参加なので皆さんの意見を聞いて、お手伝いできることがあればやりたい。

稲城市は水路や梨が有名なので、梨の大木を駅前のシンボルツリーにしてはどうか。

事業スケジュールなどの情報は、地権者だけでなく店子にも知らせてほしい。

商業地環境づくりについて

稲城市はにぎわいのないまちなので、にぎわいの中に商業施設があり、みんなが集まってくるまちにしていきたい。

周辺の都市が発展し、稲城の商業環境は悪化している。イベントにも使えるインフラ整備を推進してほしい。

商店街がシャッター通り化しており、今のうちにイベントスペースを確保したい。市民の応援があると心強い。

できる高架下や公園などの空間を有効に利用してほしい。ワークショップで話した内容は正確に伝えてほしい。

イベントや祭りをやって活気のある街にしていくためには、組織づくりが必要だと思う。

用途地域を商業地域に変えて容積率を大きくしてほしい。

～川原先生からのアドバイス～

最後にアドバイザーとして参加していただいている首都大学東京の川原先生から講評をいただきましたが、その中で、にぎわいづくりを行っていく上での心構えについてアドバイスをいただきました。稲城長沼駅周辺地区にとって非常に重要な話だと思っておりますので、その概要を整理させていただきました。

議論ばかりしていないで、まず始めてみる必要

完成形をまちづくりの目標にするのではなく、どんなことでもいいから、まず何かを始めて、小さな成功を積み上げていく必要がある。「何かをする」というのは、他の誰かではなく、まちの誰かが企画をたてて、予算を集めて、責任者を決めて実行するということである。

何が欲しいという発想から何がしたいという発想への転換が必要

まちの道路や施設などのハードだけができてまちが元気にならないという失敗例はたくさんある。要望してハードをつくってもらおうという発想から、まちの人がそこで何をしたいのかという発想に変わってほしい。

人を集めるということを根幹にすることが必要

まちづくりでは個々のお店をどうするかまで考えるのは難しいが、個々のお店が成り立つようにするために、まず、公共的な空間に人を集めることはできるかもしれないということを発想の根幹にすえて欲しい。

情報を出したい共有する場所を地元でつくる必要

いろいろな情報が伝わっていない気がするが、単に行政が情報発信するだけではなく、まちの中に情報ボックスやまちづくりミュージアムのような、そこへいけばまちで起こっていることがわかる場所を地元の人がつくっていくことが必要である。

～これからのスケジュール～

「稲城長沼のまちづくり」については、今年度あと2回程度の開催を予定しています。途中からの参加も大歓迎ですので、ぜひお誘い合わせのうえご参加ください。来年度以降についても、皆様のご希望を受けて、継続していきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。

第1回稲城長沼のまちづくり
(平成24年1月16日)



第2回稲城長沼のまちづくり
(平成24年2月13日予定)



第3回稲城長沼のまちづくり
(平成24年2月27日予定)

稲城長沼のまちづくり

～みんなで作ろう新たな魅力！～

まちづくりニュース **NO.2**

日頃より、地域の皆様におかれましては、稲城市のまちづくりにご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、稲城長沼駅周辺は基盤整備の進捗や時代変化の中、これから大きく変化をしてまいります。その中、この街のにぎわいや魅力をどのように高め、より魅力的な街にしていくにはどのようなことをしていけば良いかということを考える会として「稲城長沼のまちづくり～みんなで作ろう新たな魅力！～」を開催してまいりました。



第1回では、皆様より稲城長沼駅周辺に対する課題や魅力などの率直なご意見をいただきまして、続く第2回ではにぎわいづくりにはどのような方法があるかについてお考えいただきました。そして、第3回目では具体的な企画案を考えていただきました。

本号では、2月13日と2月27日に開催した第2回、第3回の概要のご報告をいたします。

～これからの「稲城長沼のまちづくり」について～

みなさんのにぎわいづくりへの想いを実現の方向にもっていくために、これからは、より具体的な活動を目指していきたいと考えております。

今回の企画案を、より具体的に実現していくための会を今後もおこなってまいりますので、今までご参加いただいた方も、ご参加いただいていない方も、ぜひ一緒にご参加ください。

今後ともよろしく願いいたします。

まちづくり市民ワークショップ
(平成 22 年 2 月～12 月)

□全6回開催し、稲城長沼駅周辺のまちづくりにおける駅前広場・駅周辺の整備方法について意見をいただき、案を作成しました。

第1回みんなで作ろう新たな魅力！
(平成 24 年 1 月 16 日)

□稲城長沼駅周辺のにぎわいづくりについて、課題や魅力などの率直なご意見をいただきました。

第2回みんなで作ろう新たな魅力！
(平成 24 年 2 月 13 日)

□にぎわいづくりにはどのような方法があるかの意見交換をしました。
(概要は次ページ以降にてご紹介いたします。)

第3回みんなで作ろう新たな魅力！
(平成 24 年 2 月 27 日)

□すぐできそうなにぎわいづくりの方法について具体的な企画案を考えました。
(概要は次ページ以降にてご紹介いたします。)

稲城長沼の魅力とにぎわいづくりの実現に向けて

～第2回(2月13日)で行なったこと～

稲城長沼駅や周辺地区でのにぎわいづくりの事例紹介をしていただきました。

「夏祭り&ビアガーデン」 ペアリーロード稲城商店街では、年に1回、家族が楽しめる夏祭りと同時に、通りの一部を通行止めにして、路上でビアガーデンをするというイベントをおこなっているそうです。今年で3年目を迎えるとのことで、商店街の高橋会長からご紹介をしていただきました。



「矢野口駅前きらきらフェスタ 2011」 昨年末に隣の矢野口駅で開催されたイベントについての紹介がなされました。イベントではイルミネーションの点灯や舞踊、子供の演奏、「稲城なしのすけ」のモニュメントのお披露目などがされました。

雑誌「多摩ら・び」 情報誌「多摩ら・び」の稲城特集号について概要紹介がなされました。

稲城長沼のにぎわいづくりのためにできそうなことを自由に話し合いました。

参加者の方に3つのテーブルに分かれていただいて、稲城長沼の商業地のにぎわいづくりについて、すぐにできること、事業後にできること、現実的なこと、突拍子も無いことなど、制約をつくらずに、自由にいろいろなアイデアを出していただきました。

最後には意見を整理して、各班の内容の発表をしました。

～参加者のご意見～

参加者の方に、にぎわいづくりのいろいろなアイデアを出していただきました。すぐできそうなことと、長期的に考えることに分けると、概ね次のようになりました。

■すぐできそうなこと(この1～2年で実現できそうなこと)

・ビアガーデンなどのイベントを軸にして拡大

・活動をしている人たちとつながる

・たまり場をつくる

・情報を提供する場所

・まちのマップをつくる

・農家の人とタイアップ

・ウォーキングイベントとタイアップ

・買い物を自宅に届けるサービス

・フリーマーケットなど



■長期的に考えること(場所の確保や準備に時間がかかりそうなこと)

・高架下を商店会で借りて定期的に情報発信

・お祭りの時だけの梨を使った商品開発

・サイクリングコース

・誰でも乗れる電気自動車

・駅前広場等でイベント

・高架下で人が集まれる場所

・若い人が集まってくる場所をつくる

・多摩丘陵への入り口として緑を再現

・阿波踊り連を集めてグランプリ

・ガンダムの大河原さんや画家の松樹路人さんに参画していただく



～第3回(2月27日)で行なったこと～

にぎわいづくりの事例紹介やまちづくりを進めていく組織づくりの事例を紹介していただきました。

「エリアマネジメントの事例」 地域の価値を管理・運営していく組織の事例として、南山東部でエリアマネジメント活動をされている宇野さんに、なぜエリアマネジメントが必要なのか、まちづくり組織のあり方、活動内容を紹介していただきました。



「いなぐらし」 稲城長沼駅周辺で「いなぐらし」という活動をされている鈴木さんに内容を紹介していただきました。稲城産のキウイジャムやみかんジャムづくりなどをはじめ、「稲城にまつわる人とものが出会う」活動を目指されており、人のつながりが重要という話を伺いました。

「稲城の特産品」 梨ワインと稲城のお菓子などをはじめ特産品の紹介していただくとともに、梨ワインの試飲をしていただきました。



第2回のアイデアの中からすぐできそうなことを各班でひとつ選んで、企画をしていただきました。

4つのテーブルに分かれていただいて、すぐできそうなアイデアの中から各班でひとつ選んでいただいて、いつ、どこで、誰がやるのか、具体的に何をやるのかなどについて話し合っていました。各班でいろいろ面白い企画がまとまりました。

各テーブル出された企画を発表し、自由に意見交換を行ないました。

各班の参加者の代表の方に企画の発表をしていただきました。

その後、稲城名産のお菓子や「いなぐらし」から提供いただいたパンやジャム、稲城の地下水、梨ワインなどの試食、試飲を行ないながら、稲城長沼のにぎわいづくりについて自由に意見交換をしていただきました。



～各班の稲城長沼のにぎわいづくりの企画～

各班で話し合った、にぎわいづくりの企画は次のようにまとまりました。

第1班の企画 (第1班では、「稲城名物まつり」という名前で企画が整理されました。)

企画…

「稲城名物まつり」

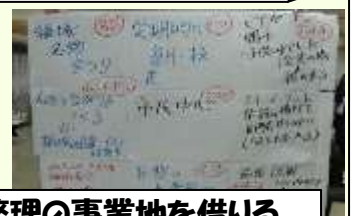
何をやるのか…

- ・ビアガーデン等の拡大
- ・朝市で農産物やフリーマーケット
- ・子供の発表会

誰が…**商店街だけでなく市民も中心に**



いつ…**花の季節に合わせるなど、定期的に**



ポイント…**人のつながりをつくることから始める。**

どこで…**区画整理の事業地を借りる**

第2班の企画 (第2班は、地域情報の活用などのいろいろなアイデアが出ました。)

企画…

「地域情報の活用」
「まち歩き・マップづくり」



何をするのか

- ・まち歩きができるコースづくり
- ・名所・神社などの地域資源を探る
- ・おしゃれなパンフレットづくり

考えられること

- ・市内の物品の交流、移動販売をする。
- ・稲城の物産、お年寄りの方、挨拶などを大事にしたり、気軽に立ち寄れる場所があるといい。
- ・稲城のキャラクターの「稲城なしのすけ」や稲城の神社や名所、南山の自然の活用

ポイント…地域情報を整理して、どう活用できるか、知らせていくのかを考えよう！

第3班の企画 (第3班は、名産品などをうまく利用した企画を考えてくださいました。)

企画…

「特産品をつかったイベント」



何をするのか

- ・旬のもの、手作りの販売
- ・スイーツフェア
- ・料理コンテスト
- ・朝市のような定期的なイベント

ポイント…来てくれる人が飽きないように、常に工夫をしていくことが必要

考えられること…稲城名産の梨を活用したナシ祭り ・大丸用水の活用

- ・核になるお店と路地のような商店のにぎわいが必要
- ・高架下にまちの情報センター、高齢者が休憩できるお休み処とか、市の出張所など。

第4班の企画 (第4班は、2つのプロジェクトをまとめていただきました。)

企画…

「地域の先生プロジェクト」
「子供をまきこむ仕掛けとしての〇〇コンテスト」



誰が…

生産者に伝道師になってもらう
子供を巻き込む



何をするのか

- ・生産者に講師になってもらう
- ・ラベル・おみやげセットづくり
- ・エコバックコンテスト
- ・食育インタビュー

ポイント…生産者と消費者の想いをつなぐ仕掛けづくり、つなぐ場としての商店街の役割を活かす

～アドバイザーの川原先生(首都大学東京)からの講評～



「稲城には沢山の魅力があり、それをつないでいって活動を起こし、それを将来の駅周辺のハードづくりにつなげていければいいと思います。これからが楽しみになってきました。」